「上寺山西」注記の須恵器について（２）

清水 邦彦

１．はじめに

上寺山古墳は茨木市にかつて存在した古墳である。名神高速道路の建設工事に伴って発見され、1961 年に発掘調査がおこなわれた。調査の結果、火化された横穴式木室の存在が明らかとなり、わずか 12 日間の期間ながら参加者による緻密な調査によって、現在、横穴式木室の代表例の一つとして知られている。

上寺山古墳の調査成果の共有については、調査を担当した田代克己による『上寺山古墳発掘調査概要』（田代 1972）が長らくその役目を果たしてきたが、2015 年に正式な報告書が刊行され（李編 2015）、より詳細なデータが提示されている。そのなかで、筆者は「上寺山西」と注記された須恵器について資料紹介した（清水 2015）が、新たに「上寺山西」注記の須恵器１点の所在を確認できたので、紹介する。

２．上寺山古墳の概要

上寺山古墳の概要を記しておく。墳丘についての情報はなく、火化された横穴式木室、さらには３基の木棺が検出された。出土遺物は須恵器のほか、鉄鏃などの武器類、鉄製馬具類、鉄釘などがあり、その多くは第１号木棺の北側に片付けられた状態で出土している。

古墳の築造時期については、初葬である第１号木棺に伴う須恵器蓋坏が大阪府南部（陶邑）窯址群編年の TK209 型式に位置づけられる（木村 2015）ことから、６世紀末から７世紀初頭にかけての実年代を想定することができる。

３．「上寺山西」注記の須恵器について

前稿では、文化財資料館で保管している「西 P33」、「西 P40」、「西 P46」、「西 P49」、「西 P50」と注記された須恵器５点（図１）を紹介するとともに、大阪府教育委員会で保管されている須恵器の実測図「上寺山西 P31」、「上寺山西 P32」、「上寺山西 P36」、「上寺山西 P42」、「上寺山西 P47」の計５点と注記がないが同じ台紙に貼られた須恵器の実測図１点を紹介した（図２）。

「上寺山西 P」という表現から、文化財資料館で保管している「西 P」須恵器も上寺山古墳出土である可能性が高いことを指摘した。また、上寺山古墳出土須恵器と同じ型式に位置づけれる点も上記の可能性に矛盾しない。

また、「P」と注記された玄室内出土須恵器と「西 P」と注記された須恵器の関係が問題となるが、玄室以外から須恵器が出土したとの記述もないことから（田代 1972）、第１号木棺北側の須恵器や敷石が片付けられた地点から出土した可能性を指摘した。わずか 12 日間という短い調査期間であるがゆえに、出土遺物や敷石を採り上げていくなかで、新たに出てきた須恵器の出土状況を描く余裕がなく、玄室の「西」側から出土したことを示すための注記ではなかったかという推測である。

さて、本稿で紹介するのは、「西 P31」と注記された須恵器である（写真１）。器種は短頸壷で、口径 7.4cm、器高 9.5cm である。体部から口縁部にかけて比較的ゆるやかに屈曲し、口縁部は内上方にのび、端部は丸くおさまる。この短頸壷は、前稿で紹介した実測図「上寺山西 P31」と一致する（図２－６）。そのため、「西 P」＝「上寺山西 P」という前稿の推測を裏付ける資料と評価できる。

４．おわりに

本稿で紹介した「西 P31」注記の須恵器と「上寺山西 P31」実測図が一致したことにより、前稿で推測した「西 P」注記須恵器が上寺山古墳から出土したことが確実となった。これは上寺山古墳の須恵器を検討するにあたっては、重要な情報となろう。

参考文献（五十音順）

木村理恵 2015「上寺山古墳出土土器小考」『上寺山古墳の研究』上寺山古墳研究会　pp. 87-93

清水邦彦 2015「「上寺山西」注記の須恵器について」『上寺山古墳の研究』上寺山古墳研究会　pp. 94-96

田代克己 1972『上寺山古墳発掘調査概要』茨木市教育委員会

李聖子編 2015『上寺山古墳の研究』上寺山古墳研究会

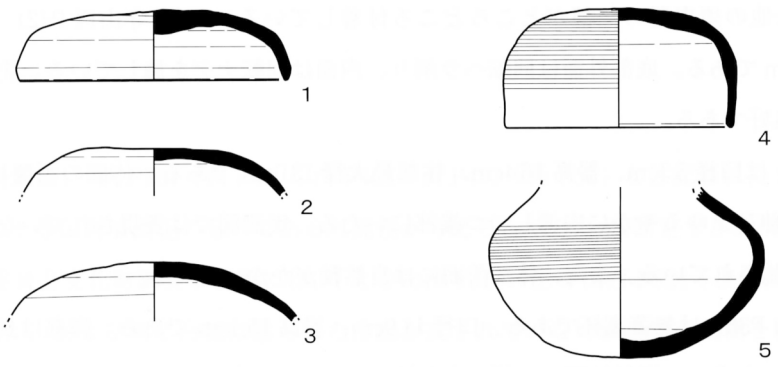

図１　「西 P」注記須恵器（S=1/4）

（1: 西 P46 2: 西 P49 3: 西 P50 4: 西 P33 5: 西 P40）

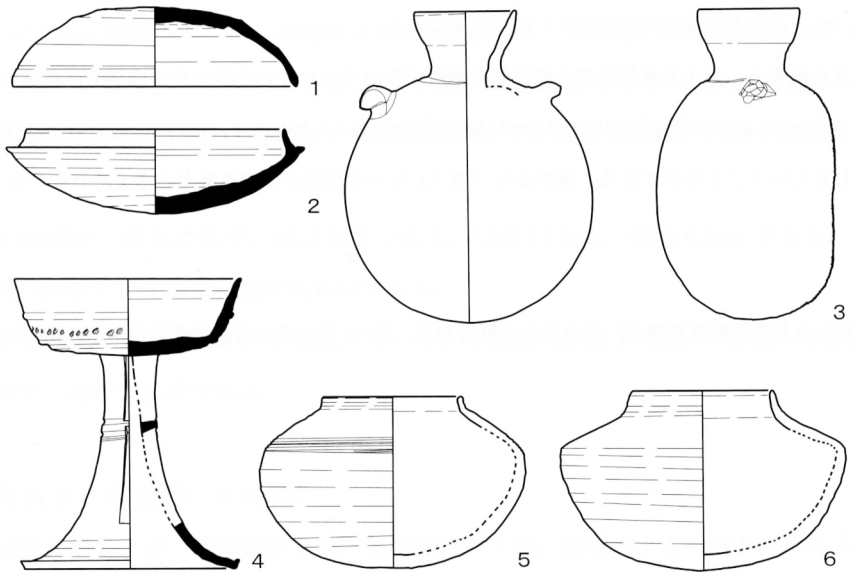

図２　「上寺山西 P」注記須恵器実測図（S=1/4）

（1: 西 P47 2: 西 P42 3: 不明 4: 西 P36 5: 西 P32 6: 西 P31）

写真１　「西 P31」注記の須恵器